

**2019年9月期 第3四半期 決算説明会 質疑応答の要旨**

2019年7月30日に開催した第3四半期決算説明会(機関投資家・アナリスト・報道関係者向け)における主な質疑応答の要旨は下記の通りとなります。

**◆ネットマーケティング事業について**

Q1. 電通との協業進捗について

A1. 提携が半年経過した時点で、両社による協業は順調に進んでいると感じている。また、来期においては今期以上の成果を獲得していこうという方針で一致している。短期施策は2Qから増加しており、統合マーケティング提案は毎月の受注、仕掛案件数が順調に積みあがっている。時期としては納品のタイミング次第で4Qに一部収益貢献することもあるが、主には来期での収益貢献と捉えている。

Q2. ネット広告市場の状況について

A2. 引き続き、市場全体は安定して伸びていると捉えている。中でもブランド広告市場のデジタルシフトが進み、一部強弱もありながら消費財関連を中心に伸びている。一方で、アプリ領域では引き続き国内モバイルゲームのプロモーション等が弱含みとなり、強くは伸びていない。

**◆メディアコンテンツ事業について**

Q3. 来期の GANMA! のマネタイズと投資の考え方について

A3. 今期は広告費用を大きくかけず、ビジネスモデルの強化及びプロダクトの改善を優先した。結果、広告だけではなく、サブスクリプション収益の増加によりバランスの良い収益基盤へと今期を通して進捗している。そのため現時点では確定ではないが、来期にかけ大きく広告費用をかけることは想定していない。電通による販売も計画通り進捗し、またマンガだけでなくマンガを原作としたアニメーションへの展開という部分で、電通との提携も活かせる事業開発の芽が出てきている。

**◆その他**

Q4. 4QにおけるLion社の構造改革費用と来期への影響について

A4. 4Qでの適正な人員規模への縮小と小規模オフィス中心に閉鎖する費用は、追加で数千万円規模を見込んでいる。来期は、適正な費用構造による増益効果があると想定している。

Q5. ONE MEDIA への出資、収益貢献について

A5. 両社が対象とする顧客が同じブランド広告市場であり、当社にとって事業面での連携が見込めるため出資による資本提携となった。両社の顧客基盤を活用し、ブランディング動画制作に強い ONE MEDIA とデジタル広告運用に強い当社で共に強みを持ち寄り、大手ブランド広告主に対して独自のソリューション、サービスを提供していく。

以 上